

本コーナーでは漢方の専門医が日常診療で出会う患者さんを例に、漢方処方決定の際の留意点と、漢方薬の服用によって症状が改善していく経過を解説します。さて、今回はどのような症状にお困りの方なのでしょうか。

## 【カルテ 10】 体力に自信がない人のかぜ、長引くかぜ



Jさん

コンコン(咳)。ねえ、冷房効き過ぎじゃない？

同僚

節電も以前ほどうるさくなくなってきたから、また温度下げてるのかもね。

何だかのども痛くなってきたし、かぜひいちゃったのかも……。

### 患者プロフィール

Jさん・44歳・女性

- ・証券会社で事務職に就いているJさん。もともとあまり体力には自信がないのだが、病気がちということではない。
- ・オフィスの冷房ですっかり体が冷えているはずなのに、薄ら汗ばんでいる。微熱とのどの痛みも感じ始めたので会社帰りに自宅近くのクリニックを受診すると、冷房で体調を崩したのだらうといわれ解熱鎮痛剤を処方された。
- ・1週間経過しても熱っぽさとだるさがとれない。痰のからんだ咳と頭重感もよくならないので、同僚に勧められた漢方クリニックを受診した。



### 漢方医学による 診断(四診\*)

※問診、望診(見ることによる診断。舌診など)、切診(手で触れる診断。脈診、腹診など)、聞診(聴覚、臭覚による診断)の四つをいう。

● 重い症状ではないが、かぜが長引き体力も落ちている。  
● 胃腸も弱っており、のどもすっきりしない。

花輪:それほど高熱というわけではないんですね。少し、背中が汗ばんでいますね。食欲はありますか。

Jさん:もともと胃腸があまり丈夫ではないのですが、会社の冷房で体が冷えたうえに解熱鎮痛剤を飲んだりしたからか胃もたれがひどくなって……。食欲はあまりありません。

花輪:そうですね。かぜかもしれませんが、一応、採血とレントゲン検査をしましょう。

検査実施



問診、望診

どのような症状ですか。

熱は37℃ちょっとなのですが、のどが痛くて咳も出て痰もからんですっきりしません。

● 花輪: ご安心ください。検査では特に重大な疾患はみつきりませんでしたし、気管支炎も起こしていません。調子が悪くなってからどのくらいになりますか。

● Jさん: こんな状態がもう2週間ぐらい続いています。

● 花輪: 夏のかぜは長引きやすいので、やはりかぜかもしれませんね。白苔\*があるので胃腸も疲れているようですから、胃腸の影響が少ない参蘇飲という漢方薬をお出ししましょう。痰の切れも良くなるはずですよ。

● Jさん: ありがとうございます。

● \*白苔  
舌の表面に現れる白い苔状の付着物。新陳代謝の衰えや体の熱状や冷え、胃腸機能の低下やかぜの経過などの目安となる。



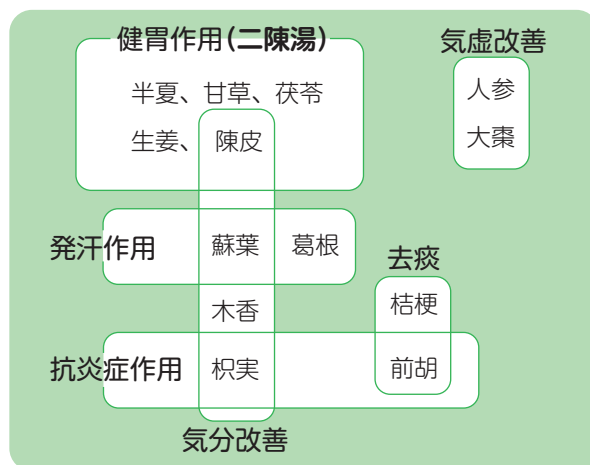
## 漢方薬を決定する

参蘇飲は体力がなく胃腸の弱い人のかぜ、長引くかぜ、気分的に落ち込みやすい人のかぜを穏やかに治す漢方薬です。

かぜに用いる漢方薬の多くには麻黄や桂枝などの発汗を促す生薬が含まれていますが、麻黄は胃腸を荒らすことがあり、発汗作用も強いために疲労感も増大させます。参蘇飲には発汗を促す生薬として麻黄の代わりに、体表の熱を少しずつ放出させる蘇葉や葛根が使われています。清熱・去痰に働く桔梗、抗炎症作用のある枳実や前胡も含まれていて、古くから体力のない方のかぜの治療薬として処方されてきました。

参蘇飲に含まれる13種類の生薬のうち半夏、茯苓、陳皮、生姜、甘草の5つは、胃もたれなどの胃症状を改善し胃粘膜保護に働く「二陳湯」の構成生薬ですから、処方のベースに胃腸を保護する作用をもっています。

参蘇飲は体が冷えなどで弱っている時や胃腸の弱い方のかぜ、長引くかぜを穏やかに治していく漢方薬です。また、蘇葉や木香は鎮静や気分の改善にも働きますので、気持ちの停滞にも期待できる漢方薬です。



処方名	構成生薬	効能
参蘇飲	半夏、茯苓、葛根、桔梗、陳皮、前胡、大棗、人参、甘草、枳実、蘇葉、生姜、木香	体力虚弱で、胃腸が弱いものの次の諸症: 感冒、せき



まず、胃腸の働きが改善されて食欲や疲労感が回復し、次第にかぜの諸症状がやわらいでいきます。

処方して1週間後

花輪：いかがですか。少しは楽になりましたか。

Jさん：はい。胃腸の調子がだいぶ良くなり、少しずつ食べられるようになりました。



1ヶ月後

同僚：随分、元気そうになったじゃない。やっぱり、漢方が効いたのかな？

Jさん：うふふ。でもクーラーはだめよ。これから部長に温度上げて下さいっていおうと思って。節電しなきゃね。



2週間後

Jさん：熱もとれて、咳もなくなったのですが、気分がとても良いので、もう1週間続けたいのですが、いいですか。

花輪：よろしいですよ。おそらく蘇葉や陳皮、木香など、気分を改善させる生薬が入っているので、それが良いのでしょう。



花輪先生から店頭へのメッセージ

〇〇湯と〇〇飲

漢方薬の多くは煎じてお茶のように服用するものがほとんどなので、処方名には葛根湯、桂枝湯、半夏瀉心湯などの「〇〇湯」や、今回ご紹介した参蘇飲や連珠飲、温清飲、茯苓飲などの「〇〇飲」の処方名が多くみられます。この「湯」と「飲」は「薬の飲み方」を表しています。「湯」は煎じてすぐに「お湯のまま一気に服

用して病気をすみやかに治す」というイメージです。一方、「飲」は煎じたものを「お茶のように少しずつ、何度も飲む」という意味があります。参蘇飲は急激に発汗させて熱を冷ます漢方薬ではありません。「〇〇飲」ですから、辛抱強く飲み続けながら緩徐にかぜを治していく漢方薬だとお考えください。いいかえれば体にやさしい漢方薬ともいえるのです。